ライオン寺だより 春

出張版

今宿にある浄土真宗本願寺派の来恩寺が毎月発行している「ライオン寺だより」。1992年に創刊し、一昨年は300号を迎えました。今回、仏教の一大行事の1つである「花まつり」に際し、タウンニュース特別出張版を発行します。知ればより一層仏教が身近になる、そんなライオン寺だよりです。

来恩寺では4月21日㈯ 午後1時半から

知っていますか？「花まつり」

4月8日 お釈迦様の誕生祝う

お釈迦様の誕生日を祝う花まつり。「灌仏会」「仏生会」などとも呼ばれ、お釈迦様が旧暦4月8日に生誕した伝承に基づき、毎年4月8日に行われている。花で飾った花御堂の中に誕生仏像を安置し、柄杓で甘茶をかけて祝う姿が知られているが、これはお釈迦様が誕生した時を再現しているものだ。

お釈迦様の生まれた日

お釈迦様が生まれたのは今から約2600年前。母親のマーヤ夫人は、当時インドにあった小国の一つシャカ族の王妃。つまりお釈迦様は王族の王子として生まれた。

出産のため故郷へ向かう途中、ネパールのルンビニーの花園に立ち寄り、花に手を伸ばした時、なんと右の脇腹から生まれたという。マーヤ夫人はお釈迦様を授かる前に〝6本の牙をもつ象が脇腹から子宮に入り、世界中が花に包まれ音楽が鳴り響く〟という夢を見ていたという話もある。

来恩寺コラム

明治時代に、元々あったお釈迦様の生誕を祝う法要が桜の時期にあたることから「花まつり」と名付けられました

生きとし生けるもの それぞれ尊い

生まれたばかりのお釈迦様はすぐに立ち上がり、東西南北それぞれに7歩あゆみ、歩いた跡には蓮の花が咲いたという伝説がある。花御堂に安置される誕生仏像は、この時のポーズだ。

その際にお釈迦様は、右手で天を、左手は地面を指して「天上天下唯我独尊」と話した。この言葉の意味を「世の中で〝自分が〟一番偉い」と誤解している人も多いが、実際は「世の中で〝それぞれが〟同じく偉い」というもので「生きとし生けるもの、全ての命はそれぞれがとても尊い命だ」という正反対の意味だ。この考え方は、仏教が「全ての命あるものが、等しく仏になっていく道」を示すことにも繋がっている。

甘茶でお祝いや稚児行列も

甘茶は、釈迦誕生の際に竜王が降らしたという甘露の雨に見立てたものだ。

地域によって、花まつりに合わせ稚児行列を行うところもある。「稚児」は行儀見習いなどのためにお寺に預けられた子どものことで、古来より神聖で神仏に近い存在と見られていた稚児の姿を装い、法要を華やかにしている。

相模国物語 特別編

相模国・茅ヶ崎のルーツをやさしく紐解きます

鎌倉武士の求めた浄土

(問)東国真宗研究所事務局:茅ヶ崎市今宿1-1 0467-87-5527(来恩寺内)

「鎌倉武士の生き様・死に様」

橋本順正

平成元年生まれ。同研究所事務局長。浄土真宗本願寺派総合研究所研究助手。築地本願寺銀座サロン講師。

2月号にて、鎌倉幕府の御家人・武士であり、法然上人のもとで念仏者となった熊谷直実を取り上げました。直実の往生(死)は特異なもので、信心深い武士としての彼の生き様を表しています。

幕府に仕える武士は、御家人と呼ばれました。御家人は縦の主従関係はもちろんですが、横の他の御家人との繋がりも大切にしました。そこには「武士団の大小の差異はなく平等であるという論理」があり、これを「傍輩の論理」と言います。

直実も、この「傍輩の論理」を大切にしていました。鶴岡八幡宮で流鏑馬が行われた際、「的立の役」を仰せつかった直実が憤慨した話が残っています。「御家人はみな傍輩であり平等のグループである。自分だけ馬に乗れない役なのは不平等だ」と。「傍輩の論理」に基づけば、一人だけ抜き出て利益を得たり、損害を被るのはダメなのです。

直実は自分の死ぬ日を予告して往生しました。そのときの願文には、自分だけ阿弥陀仏がお迎えに来るなら、それはいらない。全ての人々にお迎えがくるように、「上品上生」という、善行・修行が必要な、位の高い往生の形を願っています。

自分だけの往生ではなく、みな平等に救われるべきだ。直実が法然の浄土教を深く信仰したのは、武士の「傍輩の論理」のような平等が本当に実現するかもしれない、という希望。そして絶対的平等の世界が、阿弥陀仏のもとにはあると信じていたからです。

「北条時政の祈り」

今井雅晴

昭和17年生まれ。同研究所所長。筑波大学名誉教授。著書に『鎌倉新仏教の研究』(吉川弘文館)など。現在は朝日カルチャーセンターなどでも講座を持つ。

鎌倉幕府草創期に活躍した北条時政は、もとは伊豆国の勢力の小さい武士でした。たまたま娘の政子が源頼朝と結婚したおかげで、大勢力になれたのです。

時政は故郷に願成就院という氏寺を建立しました。本尊は阿弥陀仏・観音菩薩(現在は紛失)・勢至菩薩(同)という阿弥陀三尊です。運慶の制作でした。

当時の武士は、没後は阿弥陀仏の極楽浄土への往生を願うのが普通でした。観音・勢至は阿弥陀仏を助ける存在ですから、三尊の方が心強かったのでしょう。

加えて、時政は三尊の両脇に不動明王と毘沙門天を据えました。不動明王は大日如来の化身で、火中に座り、何者にも負けない意思を示しています。毘沙門天は仏を守ろうと、鎧と剣で武装した力強い姿です。いずれも武士の守り神です。

興味深いのは、阿弥陀仏の両手です。両手を胸の前に立てて教えを説いている姿の、いわゆる説法印(手の形で仏や如来の悟りの形を示す印相の1つ)です。最近、〝平安末期以降の説法印は極楽浄土へ人々を迎える仰接印とすべきではないか〟との説が出ました。さらに興味深いのは、この説法印(仰接印)が見られるのは、女性に縁の深い寺の阿弥陀仏にほぼ限られることです。つまり女性の守り神だったのです。

時政の命綱は武士の大将と結婚した政子です。政子の安穏と来世の極楽往生にこそ、時政と北条一族の繁栄がかかっていたのです。

時政は、願成就院において、仰接印の阿弥陀仏の前で、現世の繁栄と後世の極楽往生を祈っていたのです。

7/14㈯

～東国真宗研究所公開講座2018のお知らせ～

藤沢商工会館ミナパーク(藤沢607の1) 12:30～17:00予定
参加費 一般1000円(会員無料)

- 今井雅晴(筑波大学名誉教授／同研究所所長)「親鸞の相模布教の拠点―鎌倉と国府津―」
- 飛田英世(茨城県立歴史館研究員)「鎌倉幕府と鹿島神宮」
- 橋本順正(同研究所事務局長)「神奈川県の聖徳太子信仰」

『茅ヶ崎物語』にも登場「湘南ロックンロールセンター」

幻の〝音楽の聖地〟復活へ

地元のサザンファンらイベント立ち上げ

「湘南ロックンロールセンター」。茅ヶ崎市出身のアーティスト・桑田佳祐氏がサザンオールスターズとしてデビューする前に、湘南地域で行っていたロックイベントだ。

同イベントを共に企画・開催していたのが、桑田氏の同級生でありサザンの名付け親、現在名音楽プロモーターとしても知られる宮治淳一氏。宮治氏の音楽精神を継承した音楽ファンによって、昨年、「AGAIN」の名を冠し湘南サウンド・カルチャーの復活を目指す企画が立ち上がった。

イベントは2日間にわたって開催される。

6月23日㈯「LIVE DAY」は、リキリキデリ(中海岸3の10の47)。湘南で活躍する若手ミュージシャンのほか、〝アッと驚く〟シークレットゲストも。16時から21時までを予定。

24日㈰「TALK DAY」は、マウリン(新栄町10の4ルアンビル4F)。注目は、サザンの音楽プロデューサー藤井丈司氏と、竹内まりや、シュガー・ベイブらを手掛けた牧村憲一氏の対談『湘南音楽図鑑』だ。

奇しくも今年度は、サザン40周年、宮治氏が運営するレコードカフェ「ブランディン」(富士見町)20周年のメモリアルイヤー。イベント企画には、昨年公開された映画『茅ヶ崎物語』をはじめ茅ヶ崎愛で知られる宮治氏への感謝とお祝いの意味も込められている。

料金は現在未定。問い合わせは同事務局☎050・5539・1263✉fmkamakura@gmail.comまで。

～今夜はシャカナイトフィーバー～

15日に「花まつりフェス」

音楽でお釈迦様の誕生日を祝う

「クリスマスと比較し、花まつりは関連イベントが少ない」「もっと幅広く、気軽に参加してもらえる行事に」――そんな思いを抱く仏門の若者たちが、新たなイベントを企画した。

4月15日㈰「花まつりフェス～シャカナイトフィーバー～」が、都内の求道会館(東京都文京区本郷6の20の5)で開催される。午後4時から8時まで。参加費1000円。主催は宗派を越えた仏教講座を行う「東京なむなむ」。

当日は、全国で活躍する7人の僧侶の法話や、読経、甘茶かけブース、念珠ワークショップ、飲食ブースなどのアトラクションが用意されている。

主催者の1人、橋本順正さんは茅ヶ崎市出身。東京なむなむのオーガナイザーや、市内今宿の来恩寺に事務局を構える東国真宗研究所などでも活躍中だ。

橋本さんと、加山雄三氏のバックドラマーとしても活躍する『勝手にしやがれ』のリーダー武藤昭平さんが、花まつり音楽イベントを開催したいと企画。しかし、武藤さんに食道がんが見付かり中止に。それでもお釈迦様の誕生日を祝いたいと願う武藤さんの復活と応援の意味も込めて、実現した。

イベントのラストには、武藤さんと加山雄三氏との御縁から「みんなで歌おう～君といつまでも～レコーディング！」を予定。

仏教と歌は繋がりが深く、古くは踊り念仏が知られる。築地本願寺では仏教と音楽塾「ブッダサウンズ」が開催されている。「仏教発祥の地、インドでは、今話題の映画『バーフバリ』のように、何かを褒め称えるために歌ったり踊ったりします。これも仏教の影響」と橋本さんは説明。「気軽に参加してほしい」と呼びかけた。

申し込み・問い合わせは☎050・5539・1263へ。